平成 29 年度議会報告会資料

議会活性化に向けた取り組み

１．議場への電子化導入

会議時の迅速な対応とペーパーレス化を図るため、スマートフォンやタブレット端末機器の議場への持ち込みを可能としました。

２．議会活動として位置づける議会報告会で聴取した住民の要望等を「平成 29 年度予算編成に向けた意見書」として本会議の中で提出

町政への住民の要望等を 2 常任委員会に分かれてそれぞれ内容を精査し、総務文教分野 6 項目、産業厚生分野 9 項目からなる「意見書」を作成しました。次年度の予算編成に間に合うよう、従来の「要望書」から「意見書」に替えて 9 月定例会の中で町長に提出。次年度の予算編成の際にどのように反映されたかまで検証しました。

町政への町民の思いを「意見書」として
鈴木町長に提出する岡﨑議長（中央右）

３．議会基本条例

議会及び議員の役割を明確にする必要があることから、議会活動がいたずらに縛られることのないよう留意し、コンパクトで町民にも分かり易いものを作ることで意思統一。策定委員会を設置し、平成 29 年度中の策定に向け具体的に作業を行うことになりました。

４．政務活動費の透明化

政務活動費の使途が全国的に問題視されています。朝日町においては、政務活動に要する経費を明確にし、使途を更に厳格化し、朝日町情報公開条例施行規則及び朝日町議会政務活動費の交付に関する規則に従い、請求に応じて収支報告書の閲覧を行うほか、ホームページによる公開や議会だよりに掲載することで更なる透明化を図ります。

５．議員報酬

大江町、河北町、白鷹町、高畠町など、朝日町より高い町はありますが、朝日町の現報酬額は概ね県内の平均的額に位置しているので、議員一人ひとりの資質向上と議会全体の活性化に向け更なる努力を行うことを前提に、現状を維持するのが妥当と判断しました。

以上の結果、議員報酬は「現状維持」に決定しました。

６．議員定数

「12 人の定数を維持すべき」という意見と「一人ないし二人は減らすべき」という意見に分かれ、それぞれの理由を述べ合い激しい議論が交わされました。岡﨑議長及び鈴木光一議会活性化特別委員会委員長を除く 9 人の委員で記名投票を行いました。

①現状維持（定数 12）…5 人【石井喜久男、阿部為吉、柴田喜久雄、長岡裕二、小関崇夫】

②1 減（定数 11）…4 人【細谷秀明、白田忠一、松尾正二、鈴木義昭】

以上の結果、議員定数は「現状維持(12 人)」に決定しました。

７．議決事件の条例化

総合発展計画や基本構想などのような議会の議決を要しない案件であっても、「議決事件として挙げてください」と議決すべき事件にするもので、執行部側の箍(たが)をはめる効果が期待されるものです。議会基本条例の中に盛り込むか、単独で条例化するか。今後検討します。

８．議会の災害対応

災害発生時における議会の危機管理体制について協議しました。町が災害対策本部を設置した際に、議会として支援すべく町議会災害対策会議を設置。早急かつ的確な意思決定を行う体制を構築することや、議員が速やかに本会議等に応招できるよう、安否の報告を議員の役割とするなど、災害対策本部との連携や議員の対応等について、「朝日町議会災害対策会議設置要綱」を策定しました。

９．伊勢志摩サミットの会食に採用された朝日町ワインを讃えて

（１）「朝日町ワインが伊勢志摩サミットで公式な会食に選定されたことに対する感謝決議」を採択しました。

（２）採択した「感謝決議」を A2 版のポスター(右写真)にし、町内の公共施設を始め朝日町ワインを販売する店舗に配布しました。

（３）平成 29 年 1 月 17 日（火）～19 日（木）、伊勢志摩サミットの会場となった「志摩観光ホテル」を訪問。選考委員の一人でもある同ホテルのシニアソムリエ杉原正彦氏を始め関係各位に、作成したポスターを持参しながら改めて感謝の意を伝えました。

また、朝日町ワインの選考にあたっては、審査員全員満場一致で一番に決定されたとの話しを聞き、改めて朝日町ワインの品質の高さを実感しました。

（４）有限会社朝日町ワインからの紹介で、割烹料理店と仲卸業者さんへの朝日町ワインの売り込みも行ってきました。今後においても議会として、町のひとつの顔である朝日町ワインを一層発展させるために、何ができるのか考えていかなければなりません。

10. 議会広報の充実

「議会活動が見えない！」とよく言われます。これでは何事にも町民の理解が得られません。議会活性化に向けて審議してきた内容をいかにして分かりやすく町民に伝えていくか。広報手段の充実を図っていく必要があります。そのためのモニター制度、アドバイザー制度の導入については、今後継続して調査検討していきます。

11. 模擬議会の開催

町民参加型の開かれた議会の実現や、小さい頃から議会に関心をもってもらう意味でも、子ども議会を開催できないか。今後継続して調査検討していきます。